

令和 4 年度 相談内容統計

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相 談 者	医療機関	3	2	3	2	5	6	5	1	2	3	1	4	37
	施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	行政	2	2	0	1	2	1	1	2	3	0	2	2	18
	介護事業所	1	1	3	0	4	9	1	3	7	4	2	2	37
	個人	0	2	0	1	0	0	0	0	1	4	1	0	9
計		6	7	6	4	11	16	7	6	13	11	6	8	101

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
居 住 地 域 別	白河市	4	5	6	2	8	9	4	2	7	6	4	6	63
	西郷村	2	2	0	2	1	6	3	4	6	3	2	1	32
	泉崎村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	中島村	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	矢吹町	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	0	0	4
計		6	7	6	4	11	16	7	6	13	11	6	8	101

【男女別】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	3	5	2	1	7	7	3	4	2	3	0	2	39
女性	3	2	4	3	4	9	4	2	11	8	6	6	62
計	6	7	6	4	11	16	7	6	13	11	6	8	101

【相談内容】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
①訪問診療について	4	5	6	3	6	12	7	4	6	6	3	6	68
②介護保険申請のための診療医	2	1	0	1	2	4	0	2	6	1	2	2	23
③訪問歯科診療について	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④訪問薬局について	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤医療情報について	0	1	0	0	3	0	0	0	0	3	1	0	8
⑥介護情報について	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦その他	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
計	6	7	6	4	11	16	7	6	13	11	6	8	101

在宅医療の特集

～薬剤師によるご自宅への訪問と薬の管理のお手伝い～

①薬剤師の「訪問薬剤管理指導」って何

「訪問薬剤管理指導」とは、薬剤師が医師や多職種と連携しながら、患者様の“服薬の支援” “お薬の影響（効果・副作用やADL（日常生活動作への影響）”を薬剤師の視点でアセスメントし、ご自宅で暮らす患者様が、お薬を安全に安心して服用できるように支援するサービスです。

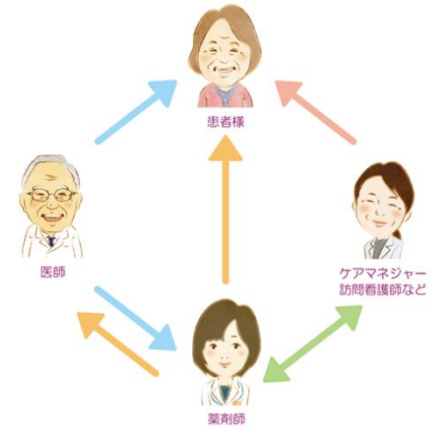
②どんな方が対象なのでしょう？

毎日の生活の中で、お薬でお困りのことはありませんか？
下の項目に当てはまる方は、対象かもしれません。

チェックポイント

- 通院が困難な方。
- 病気やケガにより寝たきりの方。
- 高齢により、服用するお薬の種類が増え飲み合わせが心配な方。
- 高齢で介護が必要な方。
- 自宅で高カロリー輸液、経腸栄養剤などの栄養療法を行っている方。
- 終末医療、疼痛緩和を行っている方。
- 退院後、自宅でのお薬の服用、管理などのお取り扱いに不安がある方。
- 在宅医療に必要な機材、衛生材料でお困りの方。

お近くのユニスマイルの薬局へ
お気軽にご相談下さい。



③どんなことをしてくれるの？

薬剤師が患者様のご自宅・ご入居施設へ訪問し、お薬のご説明・ご相談に伺います。

（例えば）

＊お薬の使用・保管方法のご説明、残薬・副作用や相互作用を確認し、お薬の重複チェック等を行います。

最近では、市販のお薬やサプリメント等の力を借りながら健康を維持されている方も増えてきました。

当薬局では、処方せんで出されるお薬との飲み合わせや影響を確認しながら、市販薬や健康食品のご相談にも応じております。

また、お薬の飲みこみを助ける「嚥下補助ゼリー」や「とろみ剤」、「口腔衛生用品」や「手指消毒剤」・「ガーゼ」、その他 介護用品など様々なニーズに応えられる薬局作りを目指しています。

（記事）ファーコス薬局 めぐみ 三輪（薬剤師）

「薬剤師が介入したことで、どんな効果があるの？
もっと詳しく話を聞きたい」とご興味のある方、当薬局までお気軽にご連絡ください。

ファーコス薬局 めぐみ

〒961-0092 福島県白河市六反山 10-26

TEL : 0248-31-2101 FAX : 0248-31-2102

【営業時間】 月～土 9:00～18:00



薬剤師が患者様のご自宅にお伺いをして、お薬の管理をお手伝いします。

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）とは、将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、患者さんを主体に、そのご家族や近しい人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、患者さんの意思決定を支援するプロセスのことです。患者さんの人生観や価値観、希望に沿った、将来の医療及びケアを具体化することを目標にしています。

心身や環境の変化に応じて、患者さんの意思を変化しうるため、ACPは、健康状態や生活環境が変わるごとに、繰り返し行われるのが理想です。また、患者さんみずから意思決定ができなくなった時に備えて、本人に変わって意思決定を行う信頼できる人（人々）を選定しておくことも大切です。

ここでは、ACPについて考える「きっかけ」になれるようエピソードを掲載していきたいと思います。

【エピソード その① ～ 父の想いと家族の想い ～】

今年74歳を迎える父。ここ1・2年で歩き方や動作が、周囲の同年代の方に比べ、とても年老いて見えるようになってきた。

若い頃は、職場の同僚や近所の人たちとの交流も多かったが、最近では人との付き合いも好まなくなってきた。おそらく、耳も遠くなり、会話が噛み合わなくなってきたことも要因のひとつなのであろう。

最近では、車の運転も危なっかしく、1日も早く免許返納をと願う家族の想いとは裏腹に「大丈夫だ！」と聞かない父。

鍋を火にかけてまま、その場を離れてしまい、鍋底を焦がすことも……。別の日は、玄関にカギをさしたまま出かけてしまうことも……。認知症なのか？そんな父の行動に母からの愚痴の電話が絶えない。

同居する母や兄も、昼間は仕事で留守にすることが多く、付きっきりというわけにもいかない。

ましてや、まだ70代……。介護を必要とする年齢には早

すぎるとも思ってしまうのが本音である。

休日、娘たちを連れて実家に泊まりに行った時のこと。父がいるリビングで娘が勉強をしていた時に、「ノートに何か書いていたよ！もしかしたら、エンディングノートのなものだったのかなあ？」と話す娘。

その日の朝、私の記憶にある限り今まで洗濯物を干すことなど一度もしたことなかった父が、自ら洗濯機から洗濯物を取り出し外に干していた。

娘が勉強している姿を見て「負けてられないな！」とでも思ったのだろうか？

父とは日頃から会話も続かず、最近思っていること、やってみたいこと、聞いていなかったなとその夜、反省した。昔は厳しかった父も、歳を重ねるごとに可愛いらしくも見えてきた。

まだ元気なうちに、やりたいこと、行きたいところ、どこで最期を迎えたいのか、聞いてみよう！話してみよう！！そして母や兄の想いも聞いて見ようと改めて思わされた。



お知らせ

* 出前講座・研修会等の開催報告につきましては、ホームページ内の「活動報告」に順次掲載して参ります。

* 現在、「在宅医療・介護連携ガイド」の情報収集を行っております。回答をまだいただいていない事業所等につきましては、お早めに返信をお願い致します。

* センター通信に「事業所の紹介」・「人生会議に関するエピソード」等、掲載ご希望の方は当センターまでお問い合わせください。（次回発行は7月上旬ごろの予定）

*** ギャラリー ***



絵：Motoyuki Seki